



**市**▶青年建築士協議会関東甲信越ブロックでの最優秀賞受賞おめでとうございます。今回の受賞や全国大会へ向けてどんな想いですか。

**荒**▶率直にうれしいですね。

小諸に風穴があることを関東エリアでアピールできたこと、また、12月開催の全国大会の場所は着物の文化がある京都。京都で、養蚕業の礎となった風穴をアピールできることはうれしさがあります。

**市**▶前回大会は、小諸の町並みについて発表され、今回風穴に着目したのはなぜですか。

**荒**▶3年前、行政の「お宝探し」企画の際に、町歩き調査を実施しました。その調査の中に、「風穴」があり、調査した者から「す

ごいものがある!!」と興味を痛めました。現代のネットゼロエネルギー時代において「究極の地熱エネルギー」がここに

あったわけです。何か活用ができないか、地域の人のとつてのメリットや風穴のマネジメントができないか考え、氷区の方に風穴保存会の結成を呼びかけるワークショップを始めました。

**市**▶建築士会からの投げかけにどう感じました。

**前**▶最初は協力できる人は誰もいなかったです。ただ、区民の心には、朽ち果てていく風穴をなんとかしたい意識があつたので、建築士会の想いは感じていました。色んな人に相談し、徐々に風穴を保存していくための仲間が区

の中に集まっていきました。この仲間なら建築士会の力を借りたら良いことができると感じ、保存会の結成に至りました。

**市**▶建築士会の取組みや全国風穴サミットが小諸で開催されることで風穴が注目を集めることについてどうですか。

**前**▶区民によつては、そのまま静かにしてほしい人や、逆に地域活性化に役立てたいと思う人がいます。私としては、子どもたちに地球の自然にはこんなすごいものがあることを感じてもらえたらいいなと思っています。

**荒**▶保存し続けていくには、費用面の運用も考えていく必要があります。解決の兆しとして、お酒の貯蔵をされた方から「風穴での貯蔵は冷蔵庫と違い振動がなく、紫外線も当たらないので旨味が残るのでは」と聞き、これこそが地域の歴史や特性を活かした特産物だと思う

ここでしかできないものがあると考えています。

**市**▶地元区民の皆さんの想いを大切にしながら一緒に

歩調を合わせるの大切なことですね。

**荒**▶あくまで風穴は個人の財産ですので、ワークショップの報告会では、皆様の所有物ですので、私たちが何かするのではなく、一緒に動き出しませんか?と伝えていきました。

**市**▶関東甲信越ブロック大会には、地元区民の方も応援に駆け付けていたのを見て、建築士会と区民の皆さんはいいチームだなと感じました。

先人たちが残してくれたものを、ただ右から左へ流すだけでなく引き継ぐために必要な要素がいろいろあつて、その中でも人と人が紡いでいく部分は大きいと感じます。最後に、市民の方へ活動を通して感じたことをメッセージいただけますか。

**前**▶風穴を通じて、色んな人



撮影日に石の置物の作製にあたる「長野県建築士会」の皆さんと、氷風穴の里保存会の皆さん。この日、石のデザインや設置場所の打合せを真剣に行う姿には、お互いが仲間であることを認め、氷風穴を共に大切にしてい

との出会いがあつて、勉強させてもらい、新たな発見があつたりしました。建築士会の皆さんとは、お互いに歳の差は関係なくいつでも友だち間隔。心の通つた良い仕事が出ています。

**荒**▶つなぐためには何をしなければいけないのか、ゆつくり考えてきました。

風穴を通じて、小諸の人のネットワークはすごいと感じました。「氷風穴の里」の文字を掘つて石の置物を作製する際に、石材屋さんが区のために積極的に協力してくれたら、看板作成の際は、材木屋さんから木材の寄附を受けました。人の気持ちのつながりが形になってきているのが感じられ、いい活動ができたなと思っています。